

平成 29 年 6 月市長定例記者会見 記録

平成 29 年 6 月 8 日(木)

午前 10 時～午前 10 時 40 分

発表案件

1 平成 29 年度一般会計補正予算第 2 号の概要について

6 月定例市議会に佐渡市一般会計補正予算第 2 号を上程いたします。今回の一般会計の補正予算の規模ですが、3 億 9 9 9 万 4 千円を追加し、予算総額が 4 7 2 億 3 千 1 9 7 万 9 千円となります。

概要でございますが、1 番目、酪農振興施設整備事業補助金についてです。生乳プラントの機能強化を図るため、佐渡農業協同組合が実施する生乳プラント施設整備事業に対して支援を行うものであります。3 億 1 千 9 9 2 万 7 千円を計上いたします。

新鮮・良質な生乳加工の生産に努めることにより、佐渡産牛乳の販路拡大につなげ、酪農経営の収益性向上並びに地域の雇用の確保を図りたいと考えております。

また、2 番目にその他の経費については、当初予算編成後の事由による緊急性のある経費について計上させていただきます。

2 「ワイドブルーあいかわ」の営業再開について

4 月から休館状態にありました「相川健康増進センター ワイドブルーあいかわ」の営業再開につきましては、営業再開に係る経費を盛り込んだ補正予算が、去る 5 月 2 2 日開催の市議会臨時会において、可決されました。これを受けまして、一日も早い営業再開に向けて、水質の安定化や機械設備等の確認などを進めてまいりました。

このたび、利用者が安心してご利用いただけるような準備が整いますので 6 月 1 5 日(木)より営業を再開いたします。

3 新潟空港～新潟港佐渡汽船ターミナル間ミニライナー運行について

現在、佐渡と新潟の定期航空路が運休中であることから、新潟空港を利用する市民や観光客をはじめとする来島者から、新潟空港と佐渡汽船ターミナル間を結ぶ直行便を望む声が多く寄せられています。

このことから、佐渡金銀山の世界遺産登録をも見据えて、今年度から社会実験として、新潟市のタクシー会社に委託しまして、新潟港佐渡汽船ターミナルと新潟空港間をジャンボタクシーで運行する事業を始めることになりました。

この事業は、新潟空港を利用する島民の利便性の向上と、インバウンドを含めた観光客の誘客策として実施するものです。

実施期間は、7月1日から来年の3月31日までの期間で、運行ダイヤは佐渡汽船のダイヤと新潟空港を発着する航空機のダイヤを考慮しまして、1日4往復8便の運行となっております。

運賃は、中学生以上を、大人料金として600円、小学生については、小人料金として300円、幼児については無料となります。所要時間は約25分で、途中下車はできません。

なお、次年度以降は、運行実績を考慮しながら継続するかどうかも含めて検討していきたいと考えております

4 雇用機会拡充事業の概要について

本年4月1日の「有人国境離島法」施行に伴い、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金が国により設けられました。

交付金メニューのうち、「雇用機会拡充事業」の概要等について説明させていただきます。

事業内容としましては、資料にもございますが、雇用増を伴う創業又は、事業拡大を行う民間事業者等に対して、設備投資資金や、人件費、広告宣伝費などの運転資金を支援することにより、雇用機会の拡充を図ろうとするものです。

補助率につきましては、国が1/2、県と市を合わせて1/4、計3/4の補助になります。

設備投資を伴う事業拡大の場合は、1年間で最大1,200万円の補助が受けられることとなります。

本年度第1回目の募集につきましては、6月2日に締め切らせていただいたところですが、現在21件の応募をいただいております。

この後、第2回、第3回目の公募を予定しておりますので、創業や、事業拡大をお考えの皆さまにおかれましては、活用についてご検討をお願いいたします。

5 滞在型観光促進事業の概要について

特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用し、新規観光客の誘客及び滞在時間の延長促進を目的として、往復ジェットfoilを利用した宿泊・体験パック商品を、7月1日～11月30日までの期間で実施いたします。

このパックは、島民運賃割引同様に、旅行者の皆様にもジェットfoil往復運賃を5,460円でご提供し、航路にかかる移動時間を短縮することで、より充実した佐渡での滞在時間を満喫い

ただくことが目的です。

夏から秋にかけての、佐渡ならではの体験メニュー、料金は2,000円～となっております。これを数多く取り揃えている他、あえて朝食のみ付いた、宿泊をパックにしており、夕食は、地域の商店街等でとっていただくことで、島の日常の雰囲気を感じていただき、島民との交流にも広がるようなプランとなっております。ただし、オプションとしてホテルでの夕食もお選びいただけます。

体験・宿・食事などの旅の素材について、数多くの選択肢からお選びいただくことが可能となったこの商品は、自分だけのオンリーワンのツアープランを組み立てることができます。簡単決済で自由性・利便性の高い商品となっておりますのでよろしくお願いたします。

販売期間は、6月16日（金）から11月27日（月）まで

販売価格は、※14,300円からとなっております。

販売場所は、佐渡汽船株式会社のホームページ並びに、窓口です。また今後は、JR東日本、その他代理販売店での取扱いも計画しており、全国的な展開に拡大していく予定でございます。

是非この機会に、多くの皆様よりこの商品をご活用いただき、本物の佐渡を存分に満喫いただきたいと願っております。

6 北沢浮遊選鉱場を活用したライブイベントとライトアップの実施について

北沢浮遊選鉱場を会場に、7月29日に和楽器によるライブイベントを開催いたします。併せて9月末までの間、史跡のライトアップを行います。

ライブは、アース・セレブレーション関連イベントとして、午後6時30分から篠笛の狩野泰一かのうやすかずさん、太鼓の金子竜太郎かねこりゅうたろうさん、ピアノの林正樹はやしまさきさんのトリオによる和洋融合の音楽をお楽しみいただきます。

入場料は無料ですが、場内の芝生への入場を、史跡保護の観点から500人と制限させていただきます。そのため、当日午後3時から相川支所前で入場整理券を配布させていただきます。

また、会場周辺の駐車場が不足していることから、お客様は相川支所からシャトルバスによる無料送迎を予定しています。

開演前には、希望者を対象としまして、北沢選鉱場周辺の散策ガイドツアーを行うほか、金塊つかみイベントや世界遺産に関する、資料展示ブースを設置いたします。

選鉱場のライトアップについては、例年白色でしたが、よりグレードアップした内容に見直し、今回からはLEDで時間により変化する幻想的なライトアップをお楽しみいただく予定です。

ライトアップの実施期間は、7月29日（土）から9月30日（土）まで、時間は午後7時30分から午後9時を予定しております。

多くの皆様からのお越しをお待ちしております。

なお、詳細は、市ホームページ等でお知らせしますのでご確認ください。

7 シートゥーサミットの開催について

今年で3回目の開催となります。7月8日から9日の2日間にわたり開催されます。

「シートゥーサミット」は海から山へと自力で進む中で自然の循環を体感し自然の大切さについて考えようという環境スポーツイベントでございます。島全体がジオパークである佐渡を、五感で感じるダイナミックな大会であるといえます。

初日の7月8日は午後4時から、アミューズメント佐渡を会場に環境シンポジウムを行います。鼓童による演奏披露のあと、第1部は、環境マンガ家・作家・カヌーイストの本田 ほんだ 亮 りょう さんをお招きし、「サラリーマンにも冒険はできる！抱腹絶倒・転覆隊の海山川バトル」をテーマに基調講演を行います。本田さんが隊長を務める、サラリーマン転覆隊の、奇想天外で抱腹絶倒な旅を紹介しながら、挑戦することの素晴らしさについてお話しいただく予定になっております。

第2部は「佐渡島の大自然と魅力について」をテーマとしたパネルディスカッションを行います。

この環境シンポジウムはどなたでも無料でご参加いただけますので、市民の皆様にも会場にお越しいただき、佐渡の大自然、魅力について一緒に考えていただきたいと思います。

2日目となります、9日は佐渡の自然を舞台にアクティビティを行います。

カヤック、自転車、登山の各ステージをリレー方式で行い、1人で全てに挑戦するシングルの部門と、5人以下のチームの部門で競います。

カヤックは朝7時に佐和田海水浴場をスタートし、約5kmを周回、スタート地点に戻るコースです。次のバイクコースでは自転車に乗り換え、佐渡金山を經由し白雲台まで約25km駆け上がります。

最終のハイクでは白雲台から金北山頂上1,172mを目指して約4.5km歩く、全長約34.5kmがアクティビティの全コースとなります。

現在参加者を募集中ですので、市民の皆様からもご参加いただき、佐渡の大自然を肌で感じていただきたいと思いますと考えております。

また沿道での参加者へのご声援もお願いし、心温まるおもてなしで大会を盛り上げていただきたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。

8 支え合い地域づくりフォーラムの開催について

7月10日午前10時からあいぽーと佐渡の多目的ホールにおきまして、支え合い地域づくりフ

オーラムを開催いたします。

2011年の介護保険法改正により、地域包括ケアの5つの視点が示され、佐渡市でもその地域らしい包括ケアシステムの構築に向けて、取り組みがはじまっております。

このフォーラムは、講演会と実践報告の2部構成となっています。

講演会では、医療経済研究機構の、服部真治さんはっとりしんじをお招きし、今年度より始まった、介護予防・日常生活支援総合事業により、高齢者の生活を取り巻く状況も変わっている中での、介護保険のこれまでと、これからについて、ご講演頂きます。

実践報告では、すでに取り組みがはじまっている島内の団体によるその地域ならではの資源を活かした取り組みについて、報告していただきます。地域の空き施設を活用した住民の集いの場づくりの実践や障がいのある方が通う、就労支援施設ならではの地域へ出かけて行う取り組みなどについてお話をしていただく予定です。

今後の佐渡での地域包括ケアシステムの推進に向け、生活支援・福祉サービスの提供をどのように進めていけばよいか、市民の皆さんと一緒に考えるフォーラムを目指していますので、より多くの皆様のご参加をお願いいたします。

9 弾道ミサイルを想定した市民への情報伝達訓練の実施について

国から弾道ミサイルに係る情報が伝達された場合、どのような情報が伝達され、どのような行動をとるべきかについて、市民の理解を進めるため、「佐渡市メール配信サービスを利用した情報伝達訓練」を実施いたします。

これは、6月12日、燕市では、国・県・市町村合同の弾道ミサイルを想定した住民避難訓練を実施いたしますが、佐渡市におきましては、国からの緊急情報ネットワークシステム（通称「エムネット」）を用いた情報伝達訓練を行うというものです。

佐渡市としても、この合同訓練に手をあげておりましたが、日程等を含めた国・県との調整の中で今回新潟県内では燕市で実施することとなりました。

なお、この情報伝達訓練は、佐渡市メール配信サービスの登録者で、「防災・安心情報」を選択された方が対象となります。

訓練にあたっては、事前にテストメールを送信して、訓練の周知を図ります。

あくまでも情報伝達の「訓練」ですので、メールを受信された場合は心配されないようお願いいたします。

現在、佐渡市メール配信サービス「防災・安心情報」の登録者は7,637人となっております。まだメール配信サービスに登録されていない市民の皆様におかれましても、この機会にこのサービスへの積極的な登録をお願いします。

登録方法については広報紙裏面に掲載されている登録用QRコードを読み取っていただき、画

面の指示に従って進んでいただくと登録することができますのでよろしくお願いいたします。

事前質問

事前質問はありませんでした。

質疑応答

1) 平成 29 年度一般会計補正予算第 2 号の概要について

記者：

生乳プラントについてですが、市での補助割合、県は 1/10 ですが、今回市長の判断で 20% に引き上げられた特例と思うのですが、その理由をあらためて・・・。

市長：

生乳プラントはかなり老朽化しております。プラントそのものの更新が出来ない場合、佐渡産の生乳そのものは新潟まで行って加工しなければならなくなり、コスト的にもかなり大きなものになってしまい、生乳業がなりたない状況になってしまう。酪農家の今後の存続にも大きな影響を与えることから、今回様々な部分を JA さんとも協議させていただいた中で、今回の補助金要綱の中で限定的な部分を明記させていただき、今後の佐渡の酪農及び佐渡から生乳が消えないようにするための特別な措置として 2 割支援とさせていただきました。

記者：

過去にもこのように特例で割合を引き上げたことはあるのか。

産業観光部長：

銀鮭養殖の時にやらせていただけてますが、あまり例はありません。

記者：

JA 佐渡、佐渡乳業など前々から老朽化によりこのようになることはわかっている中で総事業費 6 億、補助対象事業 5 億と、JA の経営規模からかけ離れたプラントを作っているのではないかという指摘があり、補助金頼みではないかといわれていますが、その点はいかがですか？

市長：

今の指摘は当たらないと考えています。当初 JA さんが考えていた規模はもっと大きい額でありました。その中でむこうにも精査していただき、必要最小限のプラントの入替えの中で出てきた事業費であります。それでも規模は大きいです。もともとわかっていたと言っても JA さんの更新計画が出てきて初めて行政サイドも含め、国からの補助金支援についても JA さんの事業スキームが確定して初めて発生したものです。国からの認可を受けたことを踏まえて佐渡市も対応しようということになり、20%の支援についても佐渡に以前から密着した JA さん佐渡乳業さんの抱えている事業ですので無駄な出費と考えるものではないと思っております。

2) 「ワイドブルーあいかわ」の営業再開について

記者：

施設譲渡の予定とかは、かわってないのか、どんな形でやるのか公募とかいろいろ考えているのか？

市長：

5月22日の臨時会において説明したとおりの手順・内容で今後もやる予定であります。

記者：

7月から公募でと？

市長：

いま公募手続きの準備をしているので、7月何日からということは今ここでは断言できませんが、スケジュール的には7月から公募をはじめるという予定は変えておりません。

記者：

営業再開ですが、今までと変わらない状態ですか。時間とか・・・。

市長：

3月末までの営業と同様の状況ではじめるということです。

3) 新潟空港～新潟港佐渡汽船ターミナル間ミニライナー運行について

記者：

どのくらいの数目標としているか？

交通政策課長：

誘客目的なため、空路を利用する半数程度と考えております。団体ではなく個人客をターゲットにしています。人数は今回社会実験ですので今後の動向をみて事業の見直しを図っていきたいと考えています。

記者：

今は直行便はないのか？どうやって行くのか？

交通政策課長：

昨年までは島内の方、観光客の方は2通りで、佐渡汽船からあるいは新潟空港から直行でタクシーを利用、それと路線バスあるいは新潟空港から新潟駅までの直行便があるのでそれを使い継いで行かれる方と大きく2種類に分かれております。団体客については、新潟空港から貸切バスで佐渡汽船に向かいますので、個人客について、バスの乗り継ぎや、タクシー利用の場合は片道約2,800円位かかりますので、費用負担の軽減を担った事業でございます。

記者：

最大で何人くらい乗れるのか。

交通政策課長：

ジャンボタクシー1台で9人乗れます。9人以上の部分についてはタクシー会社で2台で補完いたします。

記者：

事業費はどれくらい？

交通政策課長：

年間で700万円。これは運行7月1日から3月31日までの赤字補填分として最大限で700万円です。

記者：

赤字補填ということは、採算とれる運行は可能か？

交通政策課長：

今の運行体制では1台9人、最大で15人程度を予定していますが、利用客が多いということになりますとペイできることになります。しかし社会実験としてはあくまで利用状況を把握す

るため運輸局に許可をもらい運行しています。新潟市、新潟交通、新潟のタクシー業界に同意を得て社会実験を行っています。もしペイできるということになれば自主営業あるいは新潟交通の路線バスを佐渡汽船にまわすという部分も選択肢として入っているので、本年度の状況を見て来年度の事業展開を行いたい。

4) 雇用機会拡充事業の概要について

なし

5) 滞在型観光促進事業の概要について

なし

6) 北沢浮遊選鉱場を活用したライブイベントとライトアップの実施について

記者：

推薦が発表されればいいが、もっと早めにやったほうがいいんじゃない？

観光振興課長：

登録推薦の時期にあわせています。今年こそは日本推薦をいただけるものとして事業を組み立てております。めでたくお祝い、前の日になるかもしれませんが、その意味でもさらに機運を盛り上げる目的をもって、この北沢浮遊選鉱場でのライブイベントを考えております。

記者：

発表が後になることはないの？

観光振興課長：

実際に発表になる日付は、はっきりわかりませんが、後になることはない前提で考えております。

7) シートゥーサミットの開催について

なし

8) 支え合い地域づくりフォーラムの開催について

なし

9) 弾道ミサイルを想定した市民への情報伝達訓練の実施について

記者：

これはメール配信だけですか？防災ラジオとか一斉にすべてやれることをやるって、取り入れたほうがいいじゃない？

総務部長：

今回は県内 1 カ所、燕市の訓練に併せてエムネットを用いた伝達訓練を行います。実際の事態が発生すると、Jアラートが個別受信機、あるいは防災無線等で我々の手を介することなく情報が瞬時にいくということになります。今回は訓練であるので我々が出来ることということになると、行政間でエムネットを使った情報を、速やかに市民の皆さんへお伝えするツールがあるわけなのでそれを使って今回は伝達訓練ということを実施したいということです。

記者：

Jアラートは防災ラジオに直結しているのか、自動的に？

総務部長：

Jアラートが実際になりますと、当市においては各家庭にあります個別受信機、緊急情報システムが大音量で鳴りますし、同報系の無線等で流れる、これは直結していますので流れます。数年前に 1 度ありましたが、なかなか Jアラートを起動させてというのは国もかなり慎重になっていますので、今朝もミサイル発射がありましたが Jアラートは鳴っていないというところですよ。

10) その他

記者：

寺泊赤泊航路の件ですが、佐渡汽船さんのほうで早ければ来年度から撤退との考えをお持ちのようなのですが、来年度以降の計画はどのようにしているのですか？

市長：

佐渡汽船さんより、来年度から撤退したいとの申し入れ等も現在来ておりません。佐渡市として来年度以降どうのこうのと言う部分について対応する予定もございませんし、佐渡汽船さんの方からは年度の決算報告として、これくらいの赤字を抱えている航路ですという説明が来て

いるだけで、それ以上のものは正式なものではありませんので、現状のコメントは出来かねます。

~~~~~

記者：

先日庁舎問題で訴状を受けたわけですが訴状を読まれた感想を聞かせてください。

市長：

訴状は読ませていただきました。内容的には、その前に市の監査委員会に提出されました、住民監査請求とほぼ同一の内容であることは確認しております。今回、訴状が届きましたので訴状に対するこちらの弁論文書等は準備作業中であります。

~~~~~

記者：

7月に世界遺産国内推薦を前にして、民間団体と活動が活発化しているように感じるのですが、5月末にも首都圏で交流イベントもありましたし、佐渡市さんも主催ではありましたが、今回も金の道ウォークもされるということで、また、金の道を整備する草刈りですとか、相川で毎朝PRのウォーキングをしている人たちもいると聞いています。市長として、こうした民間の機運醸成のための活動をどのように評価しているかどのように考えているかお聞かせください。

市長：

民間の盛り上がりということも、かなり選考における受け止め方としては大きな効力を発揮するものと思っていますし、昨年残念な結果で終わった後、こちらからもいろいろと協力要請もしておりますが、世界遺産にする会佐渡の会、新潟の会 首都圏の会、このそれぞれの会も非常に横に連動して協力的に、いろいろな会、イベント作りの計画に取り組んでいただいております。これは今までになかった部分であり、民間の一体感というものは、かなり大きな世界遺産推進度の、これまで以上の支えになっていただいていると思います。

~~~~~

記者：

寺泊赤泊航路について、正式には聞いていないということですが、赤字航路として情報はある

とおもいますが県とかと今後どういった予定ですか？

市長

赤字航路ということでは、小木直江津航路も大きな赤字航路です。両津航路以外では2つとも赤字航路ということには間違いありませんし、以前からもかわっていない状況です。今後も含めて佐渡汽船さんと佐渡市としては議会のメンバーも入っていただき3者会議で協議を続けさせていただいておりますし、今後についても新潟県、佐渡市、佐渡汽船、さらにそれぞれの航路の発着港の自治体についても一緒になって、様々な観点から検討協議をしてそれを踏まえて方向性を示すのが一番妥当な形だと思っております。

記者：

正式でないですけど、市として地元からも存続してほしいとの声もあるかと思いますがどのような形での働きかけをしていく予定ですか？

市長：

それは佐渡汽船さんのみならず、最大株主の新潟県を含め一緒に意見交換、協議を踏まえた上で方向性は決めるものだと思っておりますし、佐渡市があればこれ言って決まるものではないと認識しております。

~~~~~